

## II 研究内容・方法

### 1 研究の内容

#### (1) ディベート学習の工夫

- ① ディベート学習の単元への位置付けと流れ
- ② ディベート学習におけるテーマの設定
- ③ ディベート学習におけるチームの編成
- ④ ディベート・マッチにおける勝敗

#### (2) ディベート学習の効果

- ① 機械的なチーム編成の効果
- ② ディベート・マッチにおける勝敗設定の効果

#### (3) ディベート学習による知識・理解の定着

#### (3) ディベート学習における具体的な配慮事項

- ① アフターディベートの重要性
- ② 教師のかかわり方
- ③ 時間設定の工夫
- ④ 児童の議論への意識

### 2 研究方法

- (1) ディベート学習についての文献研究をする。
- (2) ディベート学習の効果について、授業実践とアンケートにより明らかにする。
- (3) ディベート学習の具体的な配慮事項を、授業実践とアンケートにより明らかにする。

## III 研究の実際

ディベートの取り入れやすさを考えて、本研究では、小学校6年社会科で研究を進めている。

### 1 ディベート学習の工夫

#### (1) ディベート学習の単元への位置づけと流れ

ディベート学習を単元へ位置づける場合、教科の特質やねらいによって様々な工夫ができる。本研究では、児童の課題追究の活動を重視するという観点から、次のような位置付けをした。

単元の流れ	ディベート学習の活動	時間
学習課題を見つける	1 テーマを設定する。 2 チームを編成する。	1～2
課題について追究する	3 自分たちの論点を明確にするとともに相手の論点を予想する。 4 論点に沿って資料等の収集と整理をする。 5 資料等をもとに自分たちの論を組み立てる	4～6
課題について検証する	6 ディベート・マッチを行う。	1～2
まとめる	7 ディベート後の自分の考えについて話し合う。	1～2

このように、ディベート学習の流れを一単元全体に位置付けることにより、児童は、

- ① 見通しをもって学習活動が行える
- ② それぞれの活動で、自分の得意な能力を発揮できる
- ③ 課題追究の意欲が維持できる

と考えた。問題点としては、

- ① 時間数の短い単元では行えない
- ② 単元を通して追究させるテーマ設定が難しいなどがあげられる。

#### (2) ディベート学習におけるテーマ設定

ディベートのテーマを設定する場合、2つの方法が考えられる。1つは、児童が考え出したテーマを設定する方法で、もう1つは、教師が考えたテーマを児童に提示する方法である。児童の学習意欲を高めるのであれば前者の方が効果的であろうが、学習の方向性をしっかり持たせるのであれば後者の方が